

車座談議の概要

1 日 時 平成25年10月5日(土) 14:00~17:00

2 場 所 東部総合庁舎 別棟2階会議室

3 出席者 郷土を愛する会、チェンジ沼津、鉄道高架化を見直す沼津市民の会、ふれっしゅ沼津
24名

沼津土木事務所 都市計画課

4 いただいた主なご意見

■全体質疑

- ・技術アドバイザーに対し、どのような資料を提供しているか明らかにしてほしい。
- ・人口減→税収減は明らか。技術アドバイザーには歳入の面から検討してもらいたい。
- ・下水道など企業会計の一般会計からの繰り入れは増加する。技術アドバイザーには企業会計にも踏み込んだ検討をしてもらいたい。
- ・スマートインターも含めた将来交通予測が必要。
- ・三ツ目ガード対策が市と情報共有されていない。
- ・土木施設の老朽化が進んでいる。25~30年先の将来負担額予測が必要。
- ・東椎路の商業開発を市が進めようとしている。コンパクトシティと全く違った街づくり。
- ・鉄道高架事業の実現可能性が議論されていない。市が起業者になりえるのか。
- ・すべての事業を行政側で行うのではなく、民間の投資を呼び込むべき。
- ・国道1号の原から桃里にかけて福祉介護施設2棟の建設が進んでいる。民間の変化が進んでいる。民間活力を利用すべき。

■地区別（代替案の絞り込み）

○沼津駅周辺地区

- ・とにかくお金をかけないこと。
- ・自由通路、橋上駅舎ができればよい（代替案9 or 1 2）。
- ・三ツ目ガード（国道414）改修は、自由通路、橋上駅舎の次、財政的に余裕があれば実施。
- ・三ツ目ガードは国道なのだから、別の予算（国の予算）で整備すればよい。
- ・暫定自由通路を早急に整備すべき（オリンピックに間に合わせる）。

○原地区

- ・雇用を増やし、人口も定着させていきたい等、原地区を発展させていきたい気持ちがあるため、原B案。
- ・原での提案は、行政が全てやる内容ではなく、民間活力で補えるものが多い。公共の持ち出しも少ない気がする。
- ・ただし、インフラ整備もやっつけていかなければならないので、公共と民間が共同で実施していくこともある。

- 行政は、福祉施設が相次いで進出している原西部地区の旧国道 1 号沿いの土地の可能性について再評価すべき。
- 鉄道沿いの貨物駅予定地だけ使っても何もできない。貨物予定地周辺の土地も必要になってくる。

■ 車座談議実施状況

